

城端線・氷見線沿線地域公共交通計画 概要版

1. 地域公共交通計画について

- 地域公共交通の維持・改善は、交通分野の課題解決にとどまらず、まちづくり、観光、健康、福祉、教育、環境等の様々な分野で大きな効果をもたらす。地域の総合行政を担う地方公共団体が中心となり、地域戦略の一環として取り組む必要がある。
 - ⇒ 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正（2020年11月施行）に伴い、地域公共交通計画は地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにするマスタープランとしての役割。地方公共団体による作成や実施を法的に努力義務化。
- 城端線・氷見線沿線地域においては、「城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画」の策定（2017年）以降、人口減少社会の進展や新型コロナウイルス感染拡大の影響による「新しい生活様式」の定着など、社会情勢が大きく変化している。
 - ⇒ 社会情勢の変化に伴う諸課題に対応し、沿線地域の実情に合った持続可能な公共交通網の形成が求められることから、新たに「城端線・氷見線沿線地域公共交通計画」を策定

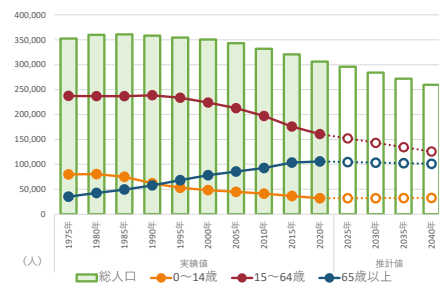
【既存計画】 「城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画（2017年度～2021年度）」

【新規計画】 「城端線・氷見線沿線地域公共交通計画（2022年度～2026年度）」

2. 城端線・氷見線沿線を取り巻く現状

（1）沿線地域の人口

- 4市の合計人口は1985年の360,690人をピークに**減少傾向**。
- 城端線・氷見線の**駅周辺**及び自動車の利便性が高い**幹線道路沿い**に人口が**集積**。
- 沿線駅周辺の中心市街地や各市の外縁部・山間部で高い**高齢化率**。



（2）沿線の施設立地状況

【観光拠点】

- 各市の歴史や文化に根付いた観光地、観光施設が数多く立地。
- 世界遺産の五箇山合掌造り集落など、**鉄道駅から離れている集客力の高い観光地、観光施設**も存在。

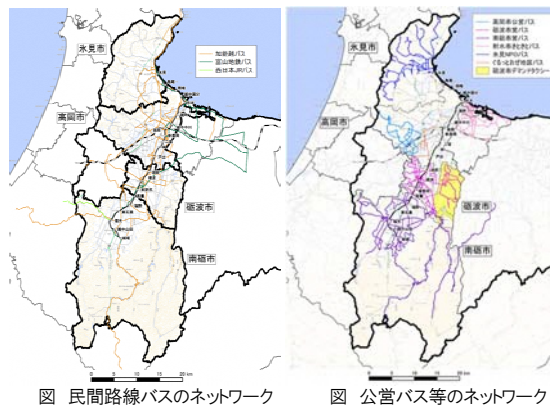


【都市施設】

- 4市の**高等教育施設**（29校）のうち24校は城端線・氷見線各駅から半径2km以内に立地。
- 4市の**医療施設、大規模小売施設**は、城端線・氷見線各駅周辺だけでなく、自動車での利便性が高い幹線道路沿いなど郊外にも数多く立地。

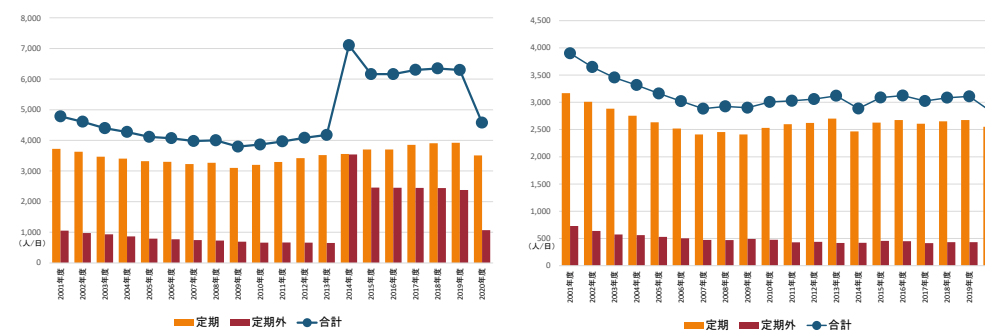
（3）城端線・氷見線沿線の公共交通網

- 鉄軌道では、高岡駅から、**東西方面にあいの風とやま鉄道、北方面へ万葉線**が運行。
- 4市の民間バス路線は、高岡駅、砺波駅などの拠点駅から**放射状**に延び、複数の市に渡って運行。
- 市営バスは、鉄軌道や民間バス路線が行き届かない地域や山間部等へ、多様な路線が運行。
- 高岡から城端、五箇山と白川郷を結ぶ「世界遺産バス」や、高岡と氷見、和倉温泉を結ぶ「高岡・氷見・和倉温泉特急バス」などの**観光路線バス**も運行。



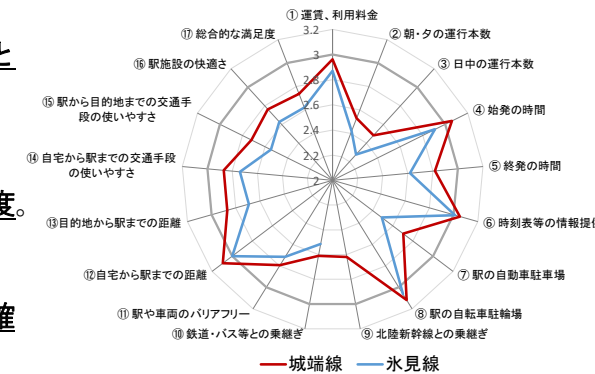
（4）城端線・氷見線の現状

- 2015年3月に**北陸新幹線、城端線の新高岡駅**が開業。
- 北陸新幹線、城端線新高岡駅の開業と同時に、城端線で**試行的な増便運行**を実施（1日4往復、全8便）。
- 2015年10月より城端線・氷見線において**観光列車「ベル・モンターニュ・エ・メール号」**（愛称：べるもんた）が運行（1日2往復、土日に運行）。
- 2017年4月に、城端線新高岡駅に**交通ICカード「ICOCA（イコカ）」**が導入（新高岡駅からあいの風とやま鉄道各駅間で相互利用が可能）。
- 2004年より運行されている**忍者ハットリくん列車**は、2021年に沿線4市の観光地を忍者ハットリくんと仲間たちが旅するデザインに**リニューアル**。
- 城端線・氷見線の乗車人員は、北陸新幹線の開業以降、概ね横ばい傾向が続いていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、**2020年度は減少**。特に**定期外利用者の減少**が顕著。



（5）沿線市民の交通行動・ニーズ（沿線のアンケート調査）

- 新型コロナウイルス収束後に**公共交通の利用回数が減少すると回答した割合が高い**。
- 城端線・氷見線ともに「**運行本数**」「**鉄道・バス等との乗継ぎ**」「**駅の駐車場**」に対して**低い満足度**。
- 特に、氷見線の「**日中の運行本数**」に対して著しく**低い満足度**。
- 城端線・氷見線ともに「**駅の駐輪場**」「**時刻表等の情報提供**」に対して、**一定の満足度**。
- アンケートを回答した全体の8割が、**高齢者等の移動手段の確保のため、公共交通を維持させることが必要と回答**。



3. 城端線・氷見線沿線地域の公共交通の課題

【地域公共交通網の共通課題】

- ① 沿線人口の減少に伴う公共交通需要減少の懸念
- ② 新型コロナウイルス収束後の需要回復の懸念
- ③ 高齢者等の移動手段の確保
- ④ 公共交通相互の乗継ぎの改善

【城端線・氷見線の課題】

- ① 城端線・氷見線間のアクセス改善
- ② 北陸新幹線との乗継ぎの改善
- ③ 持続可能な交通体系の確保

【バス交通等の課題】

- ① バスダイヤと利用者ニーズの不一致
- ② バスネットワークの活性化
- ③ 観光目線での公共交通網の整備・サービスの提供

【交通施設、駅周辺の課題】

- ① 駅舎のバリアフリー化など利用環境の改善
- ② 駅周辺の駐車場ニーズに対する対策
- ③ 運行状況、乗換え案内等の情報提供の充実
- ④ 観光客の利用を考慮した駅施設整備
- ⑤ ターミナル周辺の利便性向上

【利用者増加への課題】

- ① 公共交通利用習慣の低下
- ② 通勤・通学など日常利用者にとっての利便性向上
- ③ 観光需要と公共交通需要の喚起
- ④ 利用者マナー向上、駅美化、沿線の景観づくりなど、愛着の醸成

4. 計画の基本方針及び目標

(1) 計画の基本理念

地域に利用され続ける交通ネットワークの形成 ～ 城端線・氷見線沿線地域の自立的な発展を目指して～

(2) 計画の基本方針

【基本方針1】 日常生活の足として利用される利便性の高い公共交通の実現
～ 生活利用の視点から～

- ・JR城端線・氷見線を始めとする沿線地域の公共交通は、通学・通勤利用者を中心に、従来から沿線住民の日常生活の足として多くの方に利用されている。日常生活における移動手段として、地域生活者にとって利便性の高い、満足度の高い公共交通網の形成を目指す。

【基本方針2】 沿線地域の発展に繋がる交通ネットワークの形成
～ 広域交流の視点から～

- ・北陸新幹線新高岡駅によって首都圏から多くのビジネス目的や観光目的の利用者が訪れており、令和5年度末の北陸新幹線敦賀開業により関西圏からの更なる交流拡大が期待され、沿線地域の公共交通は、この広域交流の裾野を広げるツールとしての役割を担っている。ビジネス目的や観光目的など、多くの方に、分かりやすく利用しやすい交通ネットワークの形成を目指す。

【基本方針3】 人口減少社会を見据えた、公共交通を中心としたライフスタイルの定着
～ 将来のまちづくりを見据えて～

- ・少子高齢化、人口減少が進む中、都市機能の配置や再開発など、まちづくりを進める上で公共交通との連携は欠かせない視点である。都市と居住エリア、沿線地域間を結ぶ移動しやすい公共交通ネットワークを確立することで、自動車依存からの脱却を図り、城端線・氷見線のLRT化など新たな交通体系の可能性も検討しながら公共交通を中心としたライフスタイルの定着を目指す。

(3) 計画の目標

【目標1】 地域の暮らしを支え利便性の高い公共交通網の形成

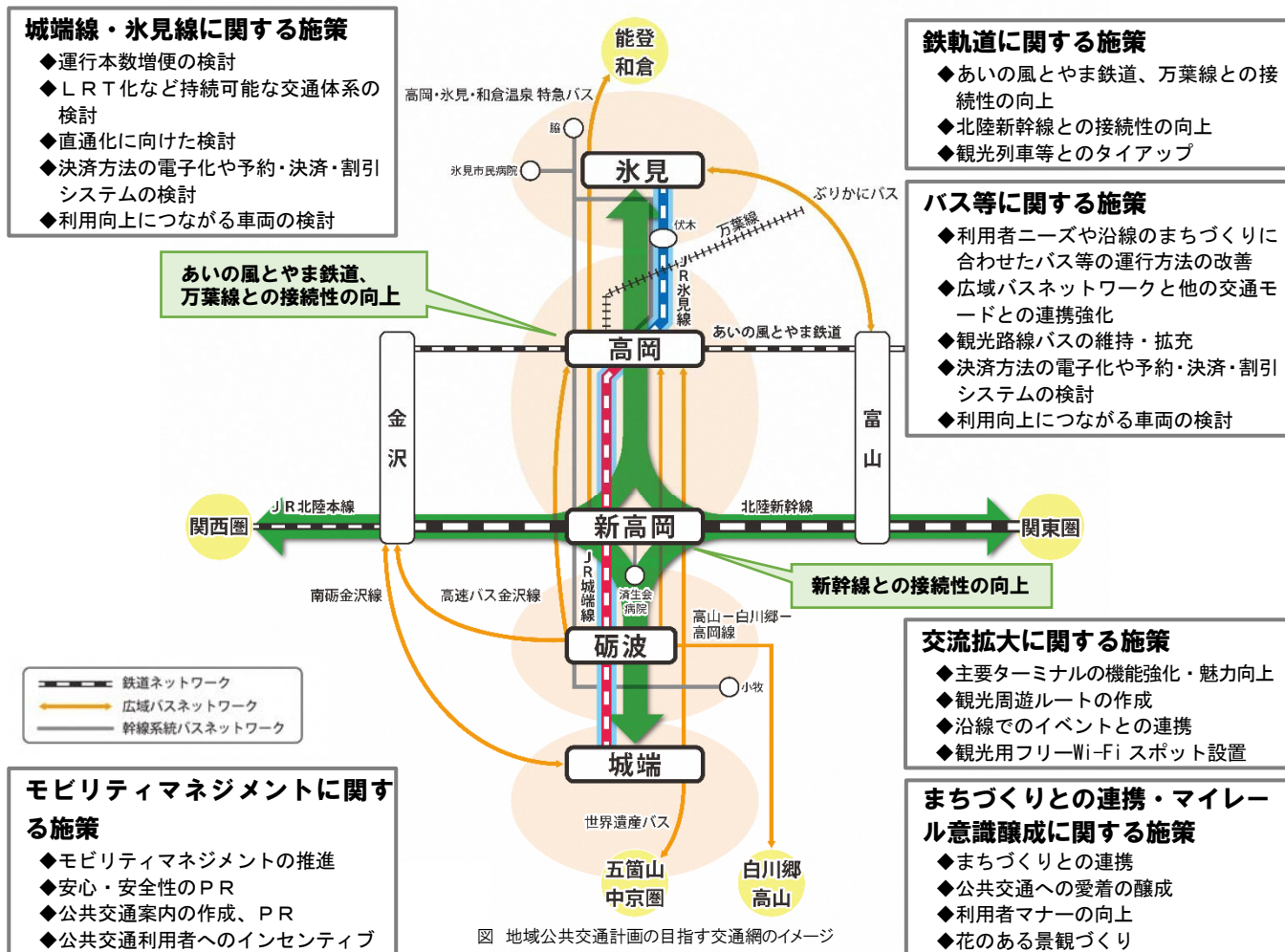
- ・「基本方針1 日常生活の足として利用される利便性の高い公共交通の実現」に向け、城端線での増便試行運行やバスの運行方法の改善、交通モード間の乗継ぎの改善などによる地域生活者の利便性を高める取組み等を実施し、地域の暮らしを支え利便性の高い公共交通網の形成を図る。

【目標2】 広域交流を促進し地域の発展につながる公共交通網の形成

- ・「基本方針2 沿線地域の発展に繋がる交通ネットワークの形成」の実現に向け、北陸新幹線等との乗継ぎの改善や公共交通案内の充実などによる来訪者の利便性を高める取組みや、観光周遊ルートへの作成や沿線イベント等との連携などによる来訪者の沿線地域での回遊・滞留を促進する取組み等を実施し、広域交流を促進し地域の発展につながる公共交通網の形成を図る。

【目標3】 まちづくりと連動した持続可能な公共交通網の形成

- ・「基本方針3 人口減少社会を見据えた、公共交通を中心としたライフスタイルの定着」の実現に向け、モビリティマネジメントや公共交通に親しむことのできる機会づくりなどによる沿線住民等の意識変容を促す取組みや、沿線のまちづくりやターミナル周辺地域の魅力づくりと連動した取組み等を実施し、カーボンニュートラルを推進するとともに、持続可能な公共交通網の形成を図る。



(4) 計画の数値目標

指標	現状値	目標値
【指標1】 城端線・氷見線の1日あたり乗車人員	11,217人/日 (集計:令和元年度)	11,217人/日以上 (集計:令和8年度)
【指標2】 地域幹線バスの年間輸送人員	706,420人/年 (集計:令和元年度)	706,420人/年以上 (集計:令和8年度)
【指標3】 城端線・氷見線の定期外利用者数割合	城端線: 21.7% 氷見線: 15.2% (集計:令和元年度)	城端線: 26% 氷見線: 20% (集計:令和8年度)
【指標4】 公共交通利用圏域内の人口カバー率	74.1% (対象人口:平成27年国勢調査 公共交通利用圏域:令和3年4月時)	77% (対象人口:令和2年国勢調査 公共交通利用圏域:令和8年4月時)
【指標5】 城端線・氷見線とその他鉄道やバスとの乗継ぎ満足度	城端線: 平均評価 2.6 氷見線: 平均評価 2.5 (集計:令和3年調査)	城端線: 平均評価 2.9 氷見線: 平均評価 2.8 (集計:令和8年調査)
【指標6】 過去1年に利用した交通手段における城端線・氷見線利用割合	城端線: 18.5% 氷見線: 9.6% (集計:令和3年調査)	城端線: 26.9% 氷見線: 13.8% (集計:令和8年調査)
【指標7】 城端線・氷見線沿線の観光施設入込数	425万人/年 (集計:令和元年度)	470万人/年 (集計:令和8年)
【指標8】 高齢者の運転免許自主返納者数	1,495人/年 (集計:令和3年)	1,900人/年 (集計:令和8年)

5. 目標達成のための主な取組み

目標達成のために行う事業	事業目的	取組み内容	実施年度					目標との関連 (●:強く関連 ○:関連)			指標との関連 (●:強く関連 ○:関連)							
			R4	R5	R6	R7	R8	目標 1	目標 2	目標 3	指標 1	指標 2	指標 3	指標 4	指標 5	指標 6	指標 7	指標 8
城端線・氷見線に関する施策	1 運行本数増便の検討	・継続的に取り組んでいる城端線での増便試行運行(1日4往復8便の増便)の検証を通じ、新型コロナウイルス感染症の収束後の観光客や沿線住民も含めた利用状況、市民ニーズ等を勘案しながら、日常利用や新幹線の二次交通としての利便性向上と利用者数の維持向上を目指す。	■増便試行の継続実施と効果検証 ■効果検証に基づく運行本数増便の検討							●	○	●	●		●	●	●	○
	2 LRT化など持続可能な交通体系の検討	・城端線・氷見線LRT化検討会において、城端線・氷見線が将来にわたり安全で持続可能な公共交通であるために、LRT化等新たな交通体系について、実現方法及びその可能性も含めて検討する。	■持続可能な交通体系を検討するために必要な調査・検証							●	●	●	●		●	●	●	○
	3 直通化に向けた検討	・城端線・氷見線LRT化検討会において、LRT化等新たな交通体系の検討とあわせて直通化を検討する。	■直通化に向けた検討調査(城端線・氷見線LRT化検討会と連携しながら検討)							●	●	●	●		●	○	●	○
	4 決済方法の電子化や予約・決済・割引システムの検討	・あいの風とやま鉄道区間でも利用可能な交通系ICカード「ICOCA」について、さらなる利用拡大に向け、必要な課題の整理を行う。併せて、MaaSなどの新技術の活用による他の交通手段や沿線店舗等と連携した予約・決済・割引システムの導入可能性の検討を行う。	■交通系ICカードシステム利用可能エリアの拡大検討(城端線・氷見線LRT化検討会と連携しながら検討) ■他の交通手段や沿線店舗等と連携した予約・決済・割引システムの検討							●	●	●	●		●	●		
	5 利用向上につながる車両の検討	・ラッピングや車両の快適性向上等を図ることで、城端線・氷見線への愛着醸成やイメージアップと利用者数の維持向上を目指す。	■ラッピング列車を活用したイメージアップ ■車両の快適性向上等の検討(城端線・氷見線LRT化検討会と連携しながら検討)							●	●	○	●		●	●		
鉄軌道に関する施策	6 あいの風とやま鉄道、万葉線との接続性の向上	・日常利用の利便性を強化するため、各路線の接続を考慮した運行ダイヤを検討することで相互に利用者数の維持向上を目指す。	■あいの風とやま鉄道及び万葉線との接続を考慮したダイヤの検討							●	○	●	●				●	
	7 北陸新幹線との接続性の向上	・広域交通としての利便性を強化するため、新幹線との乗り継ぎ利便性の高い運行ダイヤを検討し、利用者数の維持向上を目指す。	■新幹線との接続を考慮した城端線ダイヤの検討							○	●	●	●		●		●	
	8 観光列車等とのタイアップ	・沿線地域の魅力を発信するツールとして、観光列車の運行やタイアップ企画等について検討する。地域の魅力発信による観光の振興を図り、定期外利用者数の増加に繋げる。	■ベル・モンターニュ・エ・メール号での乗客サービスの提供 ■観光客おもてなし企画の実施 ■関連グッズの販売促進								●	○	●		●	●	●	
バス等に関する施策	9 利用者ニーズや沿線のまちづくりに合わせたバス等の運行方法の改善	・通勤・通学利用者や高齢者等の自動車を利用できない市民のニーズ、沿線のまちづくりの動向等に合わせ、主要ターミナルを中心とした運行ルートや必要なバス路線・異なる交通間の乗り継ぎダイヤを検討するとともに、地域が主体となって取り組む地域交通の導入やスクールバス・福祉有償運送等との連携方策を検討することで、利便性の向上と利用者数の維持向上、運行の合理化を図る。	■運行ルートやダイヤの検討 ■地域生活路線の充実・合理化の検討							●		●	●		●	●	●	
	10 広域バスネットワークと他の交通モードとの連携強化	・地域生活路線と、計画区域をまたぐ移動を支える広域バスネットワークとの連携強化・乗り継ぎ改善により、多様な広域移動路線の確保を図る。	■複数の自治体や県域をまたぐ広域生活路線バスネットワークと他の交通モードとの連携強化							●	○	●	●			●	●	
	11 観光路線バスの維持・拡充	・既存観光路線バスと他の交通モードとの連携強化・乗り継ぎ改善や、新たな観光路線の検討を行うことで、観光やビジネスに資する広域交流の拡大を図る。	■既存観光路線バスと他の交通モードとの連携強化 ■主要ターミナル発着の観光路線の検討								●	○	●		●	●	●	
	12 決済方法の電子化や予約・決済・割引システムの検討	・交通系ICカードやバーコード・QRコード決済の導入可能性の検討を行う。 ・併せて、MaaSなどの新技術の活用による他の交通手段や沿線店舗等と連携した予約・決済・割引システムの導入可能性の検討を行う。	■決済方法の電子化の検討 ■他の交通手段や沿線店舗等と連携した予約・決済・割引システムの検討							●	●	●	●			●	●	
	13 利用向上につながる車両の検討	・車両へのラッピングや車両のバリアフリー化を図ることで、バス交通への愛着醸成やイメージアップと利用者数の維持向上を目指す。	■ラッピング車両やバリアフリー車両の導入検討								○	●	●	●			●	●

目標達成のために行う事業		事業目的	取組み内容	実施年度					目標との関連 (●:強く関連 ○:関連)			指標との関連 (●:強く関連 ○:関連)								
				R4	R5	R6	R7	R8	目標 1	目標 2	目標 3	指標 1	指標 2	指標 3	指標 4	指標 5	指標 6	指標 7	指標 8	
交流拡大に関する施策	14	主要ターミナルの機能強化・魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> 高岡駅、氷見駅、城端駅の起終点駅としての拠点性及び目的地としての魅力の向上により、利用者数の維持向上と、終着駅から沿線地域全体への観光交流の拡大を図る。 併せて、駅施設や駅周辺施設の地域の拠点機能としての役割強化に向け、施設整備と利活用促進を図り、利用者の利便性向上と公共交通利用への転換を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 高岡駅、氷見駅、城端駅について、起終点駅としての拠点性向上、目的地としての魅力向上等の方策検討 駅施設、付属施設、駅前広場、アクセス経路の整備・維持、バリアフリー化 まちづくり拠点としての駅舎、駅周辺施設の整備・利活用の促進 						●	●	●	●	●	●	○	●			
	15	観光周遊ルートの作成	<ul style="list-style-type: none"> 城端線・氷見線を活用した観光モデルプランの作成やサイクルツーリズムとの連携により、定期外利用者数の増加と観光交流の拡大を図る。 今後、増加が期待される訪日外国人旅行者など、海外の需要を取り込むため、多言語対応による交通・観光案内板の整備、パンフレット作成等、海外からの団体・個人旅行者の利用増加に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通利用を前提とした観光モデルプランの作成・PR サイクルツーリズムと連携した公共交通の利用促進 訪日外国人旅行者向けの情報提供、情報発信の充実 							●	○	●		●	●	●			
	16	沿線でのイベントとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 沿線の地域資源や観光地、イベント等と連携し、公共交通を介した交流拡大、利用者数の維持向上、乗車機会の創出等を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 城端線・氷見線を利用したイベントの開催促進、支援 アニメ等地元資源を活用したイベントの共催、開催支援 万葉線との連携イベントの共催促進 								●	○	●		●		○	●	●
	17	観光用フリーWi-Fi スポット設置	<ul style="list-style-type: none"> 観光客等が利用できるWi-Fiスポットの設置拡大により案内機能の強化や利便性の向上を図る。訪日外国人旅行者にとっても、安心して沿線を訪れることができるよう、受入環境の整備に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fi設備の設置促進 								●		●		●			○	
モビリティマネジメントに関する施策	18	モビリティマネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> モビリティマネジメント手法を取り入れた自動車通勤者や地域住民に対する情報提供や公共交通を利用するライフスタイルの検討・提案等により、沿線市民の公共交通利用への意識変容やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車通勤者や沿線住民に対する情報提供 公共交通を利用するライフスタイルの検討・提案 パークアンドライド等の推進 						○		●	●		●	○	○	●		
	19	安心・安全性のPR	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策の実施・PRにより定期利用者や観光客による利用者数の回復を図る。併せて、公共交通利用習慣のない市民に対する乗り方教室等の開催により、公共交通の利用抵抗の軽減を図り、定期外利用者の底上げを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策の実施・PR（車内・ホームページ等） 小学生を対象とした乗り方教室等の開催の検討 						●	●	●	●		●		○	●		
	20	公共交通案内の作成、PR（紙媒体、ホームページ等）	<ul style="list-style-type: none"> 沿線地域の公共交通網に関して、異なる交通手段を含めた広域的な交通マップの作成等積極的な情報提供を行い、公共交通利用への転換を図る。また、訪日外国人旅行者向けの多言語対応による交通・観光案内板の整備、パンフレット作成等に取り組む、受入環境の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> バスと連携した時刻表の作成検討 沿線公共交通マップの作成 駅施設のバリアフリー対応に関する情報提供 バス時刻表、乗換え案内のインターネット検索システムへの反映 多言語対応の交通・観光案内版、パンフレットの作成 							●	●	●		●			●		
	21	公共交通利用者へのインセンティブ	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通利用に転換することに意義を見い出せるようなインセンティブ施策の導入を検討し、利用者数の維持向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車運転免許返納者への公共交通利用割引の適用等サービスの拡充 児童、生徒に対する体験学習時の利用支援、ホリデーバス・1日乗車券等の導入検討 異なる交通機関利用時に併用できる共通乗車券、定期券の導入検討 公共交通利用促進運動等実施事業所への補助方策の検討・実施 周辺地域と連携した公共交通利用者に対する割引クーポン発行の検討 						○		●	●		●		○	●	●	
まちづくり・マイレールに関する施策	22	まちづくりとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 沿線各市のまちづくりと連携した公共交通網の形成を図るとともに、都市施策や商業施策等によるターミナル周辺の魅力づくりを推進し、公共交通需要の底上げを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画等に基づく都市機能・居住の誘導 ターミナル周辺地域の魅力づくり 						●		●	●		●	○	○	●		●
	23	公共交通への愛着の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 城端線・氷見線に関するオリジナルグッズを作成・販売するとともに、地元ボランティアによる美化活動や防犯活動などの駅を中心とした多様な活動を促進することにより話題づくり、愛着の醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルグッズの作成等による親しみやすさの向上 地元ボランティアによる環境美化・防犯活動の促進 駅や鉄道に親しむイベントの開催等、駅周辺に集まる機会の創出 						○		●	●		●			●		○
	24	利用者マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> 朝夕の通勤・通学時間帯等における利用者マナーの向上を図り、利用者が安心して乗車できる車内環境を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者マナー向上のための車内アナウンス、広告等の実施 学校を通じた利用者マナー啓発 						●		○	●		●			●		
	25	花のある景観づくり	<ul style="list-style-type: none"> 城端線・氷見線の各駅や沿線において、花のある景観づくりを行い、季節ごとの魅力創出を図るとともに路線への愛着を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 城端・氷見線の各駅への花植の実施 車窓からの眺望が楽しめる景観づくり 							○	●	●		●			●		